

皆様、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

神への信仰は、神ご自身が現してくださる賜物です。なんとと言っても、イエスのメッセージは、必ずしもすべての人に受け入れられたのではありません。ここでは「知恵ある者や賢い者」がイエスを受け入れない人、「幼子のような者」がイエスを受け入れる人であると言われています。当時の知恵や賢さは律法に関する知識の意味でした。幼子は「無知な者・

無能力者」の代表であり、「幼子のような者」とは貧しく無学な人々のことを指していました。それは、私たちの教育や学習能力に基づくものではありません。無学な人々も神を信じることができます。一方、知恵があり、もしくは賢いと世の中の人々が考えているような人々が、神について完全に無知であることもあり得るのです。

だからこそ、イエスは私たちを「私に学びなさい」と招かれておられるのです。しかし、キリストのこのような生き様を受け入れて実践するために、私たちはイエスの言葉が言うように、「幼子のような者」にならなければならないのです。そうでなければ、イエスの教えを受諾し、実践することはできないからです。幼子とは、神のみ前で、純粋な者、神様の存在に生きる人だと思えます。

さらに、愛が生まれるならば、愛している人の重荷を背負おうとする動きが出てくるでしょう。愛する人を喜ばせ、幸福にするために無我夢中になって、労苦をものともせず働きかけていくものです。もし、イエスの言葉が真実であるとするならば、イエスはわたしたち普通の人間とは全く異なる存在であるということになるのです。すべての人をみつめ、つつみ、愛する心とそれを支える力。考えてみると、それは大変なことなのです。尽きることのない愛の豊かさと生命力、それがイエスの人格の神秘となって生きているのです。

イエスが何千年たっても常に人々の希望であり、力であり、光であることの原点はここにあるのです。信仰とはこうしたイエスから力と光をくみとる心だと思えます。

